

医学における「ビジュアルアート教育」の展開： 第3ステップー岡山県立美術館の協力による 対話型鑑賞の導入ー

木股敬裕^{a*}, 小比賀美香子^b, 久保卓也^c, 大塚益美^d,
岡本裕子^e, 福富幸^e, 松本洋^a

岡山大学病院 ^a形成再建外科, ^b総合内科・総合診療科, ^c救命救急科, ^d株式会社大塚デザイン, ^e岡山県立美術館

A third step of visual art instruction in medical education : Introduction of visual thinking strategies supported by Okayama Prefectural Museum of Art

Yoshihiro Kimata^{a*}, Mikako Obika^b, Takuya Kubo^c, Masumi Otsuka^d, Yuko Okamoto^e, Koh Fukutomi^e,
Hiroshi Matsumoto^a

Departments of ^aPlastic and Reconstructive Surgery, ^bGeneral Medicine, ^cEmergency and Critical Care Medicine, Okayama University Hospital,
^dOTSUKA DESIGN Co., Ltd., ^eOkayama Prefectural Museum of Art

はじめに

近年, 米国を中心に多くの医学部がビジュアルアートの役割と価値を認識し, 医学教育に導入する動きが起きている. 一方, 日本の医学教育におけるそれらの試みはまだ非常に少ない. 我々は, 2016年12月から日本初となる医学生向けのデッサン教室を開始し, 非常に高い満足度と医学教育における重要性が確認され報告してきた¹⁾. さらに2018年5月からは, 学生自らが選択したアートを基に対話するプレゼンテーション(プレゼン)の時間を導入し, その満足度と効果を報告してきた²⁾. そして, 2020年7月からは, 岡山県立美術館の協力の下に美術館の作品を利用した対話型鑑賞(県美ワーク)の時間を追加した. 今回, プレゼンで選択された作品の解析, 感想文の内容, 対話型鑑賞の詳細とアンケート結果を報告する.

対象と方法

岡山大学医学部医学科4年生から5年生のクリニカル・クラークシップにおける2週間の形成外科実習期間中に, 新たな2部構成によるビジュアルアート教室をおこなった. 5~6名の研修グループに対して, デッサン+プレゼン(150分), 県美ワーク(150分)で別々の日に演習は行われる(表1).

1. デッサン

デッサン専門家の指導の下に, 医学教育でのデッサンの意義, 基本的道具, 基本描画法の説明, 立方体の表現, 静物の表現, 手術記録の表現方法の講義を受講し, 実際の果物な

どの植物や人体各部位のデッサンの演習を行う. また, 医学関連名画の鑑賞後にプレゼンの演習を行う. プレゼンの前に, 医学医療関連やそれ以外のアート(絵画, 写真, 彫刻, 言葉, 近代アートなど)を選択し, 作品を選んだ理由と感想をレポートとして提出する. 実際のプレゼンでは, 各学生が選択した作品を数分間で説明し, デッサン専門家の進行で作品を鑑賞しながら対話を行う.

2. 県美ワーク

ブラインドトークと対話型鑑賞で構成され, 専門の学芸員がファシリテーターを務める. ブラインドトークは2人1組で1つの作品を鑑賞する. 1人が目隠しをし, もう1人が作

表1 授業の概略(①, ②は別の日に行う)

時間	授業項目	学習内容	方法
120分	①デッサン	医学教育でのデッサンの意義, 基本的道具, 基本描画法の説明 立方体の表現, 静物の表現, 手術記録の表現方法の説明 果物などの植物のデッサン 人体(手・顔)などのデッサン 医学関連名画鑑賞 プレゼン(学生選択作品による対話)	講義 演習 演習 講義 演習
120分	②県美ワーク	ブラインドトーク 対話型鑑賞	演習 演習

2023年4月5日受理

*〒700-8558 岡山市北区鹿田町2-5-1

電話: 086-235-7214

FAX: 086-235-7210

E-mail: ojyarumatsu@ninus.ocn.ne.jp

品を見ながらその内容を目隠しの人と自由に対話し、作品を鑑賞する。目隠しの人はその作品を想像する。それを交代で行う。対話型鑑賞は本物の作品を鑑賞しながら、グループ内で感じた内容を対話する。学芸員は「これは何だと思いますか?」「どこからそう感じる?」などの問いを繰り返し、対話の内容を深めていく。時には、鑑賞後に作品や作者の背景に関する説明を行うこともある(図1)。

3. アンケート

授業の最後に、アンケート調査を実施する。アンケート内容は2部門それぞれの自由記述による感想と、本授業前・後と1か月後の3時点で質問紙調査を実施し多次元共感性尺度、価値志向性尺度の「審美」に加えて、医療者への芸術教育の有用性を問う項目から成り立つ(2021年度基盤研究C、医学における「ビジュアルアート教育」に関する調査研究、代表小比賀美香子)。



ブラインドトーク



実物の作品を前にした対話型鑑賞

図1 岡山県立美術館でのワーク

結 果

1. プレゼン作品の解析とアンケート結果

2018年5月～2021年12月までの医学部生450名を対象とした。学生が対話したテーマは、医師としての姿勢:63(14%)、人間の内面や姿勢:45(10%)、生と死(死生観)や慈愛:35(7.8%)、感染症:32(7.1%)、医学の歴史:31(6.9%)、精神疾患:27(6%)、解剖関係:26(5.8%)、その他(技法、美しさ、視点、現代アートなど様々):191(42.4%)であり、医学医療関係が47.6%と約半数を占めていた。学生が選択した作品の作者としては、エドヴァルド・ムンク:20、フィンセント・ファン・ゴッホ:19、クロード・モネ:15、パブロ・ピカソ:14、ピーターフリーユゲル:14と1800年後半から1900年前半の作者が多かった。作品としては、フリーユゲル(死の勝利):12、レンブラント(テュルプ博士の解剖学講義):12、ムンク(叫び):8、ピカソ(科学と慈愛):7、アンドリュウ・ワイエス(クリスティーナの世界):5、ピカソ(ゲルニカ):5、ムンク(病める子):5、ムンク(病室での死):5などが上位を占め、ゴッホやムンクなどは作者自身の物語が学生に「気づき」を与えた可能性がある。

実際の感想文では

・医療にも限界があり、患者さんや家族の気持ちに配慮し共感し、コミュニケーションを図れる医師を目指したい

・他者と意見を共有することで新たな気づきが生まれ、人間力が形成される

・患者さんの背景を知り診療に活かすことが大切

などや、「人生のテーマが見つかった様な気がした」、「正解なき議論で多

様な価値観を受け取り、それ自体が患者の治療となり得ると考えた」等のポジティブな意見が多く認められた。具体例と感想文を示す(図2)。

2. 県美ワークのアンケート結果

2020年7月～2021年12月までに183名が体験した。ほとんどの学生が楽しくかつ意義のあるワークであると回答した。その内容をまとめると、

- ・捉え方には多様性があり、様々な視点から物事をみる重要性
- ・対話することで見え方の広がりや理解が深まる
- ・相手の立場や考えを理解しようとする事が大切
- ・自分の考えを言語化し伝える力を伸ばす重要性
- ・観察力・他者理解力・説明力は医療にも必要

などに集約され、印象的な意見としては、「耳で聴く美術はとても興味深かった。言葉で伝える難しさ、人の想像力の豊かさ、目で見ているのに気づかないことなど様々なことが分かった」、「今回のワークで心があたたかくなる感じがあった。なぜだか、言葉なしで誰かと一緒にずっといたい気持ちになった」、「何が起きているのか、なぜ自分がどういう感情を抱くのかを考え背景と照らし合わせ納得するという機会は非常に貴重であった」。

授業効果の科学的検証結果は、他者視点取得と審美性の上昇が明らかに認められ、別途論文にて公表予定である。

考 察

ビジュアルアートを導入した医学教育の報告は、近年増加傾向にありPubMedで引用しても600以上の論文が検索され、その軸となるのがVisual Thinking Strategies(VTS)である。VTSは、1988年に

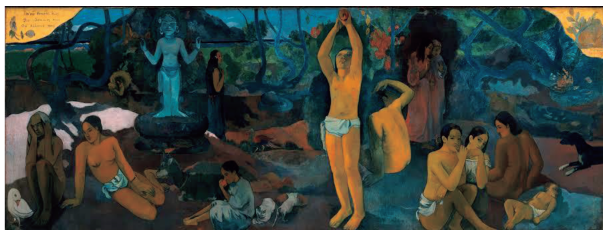
①



ピーター・ブリューゲル：死の勝利 1562頃
ブラド美術館

14世紀、ヨーロッパ全土で流行したペストの凄惨さと死についての普遍的な真実をわかりやすく表現していると思い選択した。どんな人にも死は平等に訪れ、圧倒的に多い骸骨や火の手が上がっている様子は、死が永久に逃れられない絶対のものであることを示していると思う。医療がどんなに進歩しても人の死を完全に克服することはできないことを自覚し、謙虚な姿勢で医療行為を行っていくことが大切であると感じた。絵の中の人々が取っている行動も様々で、これらは重い疾患の人や自らの死が近づいていることを自覚した人が抱く、いらだちや不安、動揺、混乱、諦観、現実逃避などの混沌とした感情を表しているようにも思える。患者さんも同様に様々な感情や思いを抱いており、私たちは医療行為を行う過程でそうした気持ちにできるだけ共感し配慮してコミュニケーションをはかることが重要だと感じた。

②



ポール・ゴーギャン：我々はどこから来たのか 我々は何者か 我々はどこへ行くのか 1897-1898 ポストン美術館

死生観、ならびに哲学や科学の根本的な問いを端的に表していると思いこの作品を選んだ。表題の「どこへ行くのか」という言葉は、死を受け入れる人の姿にも見える。今後の医療の発展で、死の捉え方が複雑になっていくと予想される中、こうした芸術や哲学の思想はその参考となるかもしれない。表題の問いかけは、個人の悩みを表しているというよりはむしろ、この問いに答えることが哲学および学問の目的であるとも捉えられる。医学もそんな学問の一つです。過去を知り、現在を捉え、未来を考えることが、医学の成熟にも重要だ。個人として生と死をどう捉えるか、医学における哲学とは何かを、この作品を通じて考えるきっかけとなった。

③



ジャン・オレノ・フラゴナール：ブランコ 1767頃
ウォレス・コレクション、ロンドン

鬱蒼とした森でブランコを漕いでいる女性がいいます。鮮やかな衣服で非常に楽しそうな表情で、射し込んだ光が幻想的にも感じます。何人かの登場人物は開放的で自由な恋愛観を表現し、明るく美しい印象と意味が異なり面白いと思います。さて、患者さんを診る際に第一印象を大切にしないさいということはよく言われます。細かな様子に気が付く観察力とそれを正しく解釈する力はとても大切で、多くの経験・勉強で培っていくのだと思います。それらは医療関係に限らず、今回の絵画鑑賞や普段の生活で常に吸収されていくことです。得た感覚や雰囲気や自分の中で表現するとさらに深まり豊かになります。それを他者と共有すれば新たな気づきになります。そういった過程を経て人間力が育まれ、患者さんに寄り添う人物が形成されていく気がします。

図2 学生が選んだ作品と感想

ニューヨーク近代美術館の認知心理学者 Abigail Housen と教育者 Philip Yenawine が報告^{3,4)} したのが最初で、その後、イエール大学⁵⁾ や Weil Cornell Medical College⁶⁾ などが美術館と共同でその手法を医学教育に導

入し成果を上げている。目的は、良き医療者の育成に必要な観察力、診断技術、チーム構築力、会話力、復活力や幸福感の向上、物事に対する熱意や感性の強化である。本邦では、京都芸術大学の福のり子教授が2004

年から VTS を対話型鑑賞として美術教育に導入し、現在では企業向けの人材育成など幅広い活動を Art Communication Project (ACOP) として広げている⁷⁾。そしてその軸となるのが、「みる・考える・話す・聴く」の4つの基本である⁸⁾。特に、相手を理解するための「聴く」という動作の重要性を述べている。我々も、岡山県立美術館での対話型鑑賞ワークにより、観察力のみならず、共感力、多様性、会話能力、などの重要性を学生が自覚するようになったこと、何よりもワークが楽しくさらに今後の医療に必要な技術であると認識したこと、そして作品の背景と自分の背景とを照らし合わせ内観（自分を見つめる）することも認められたことは大きな成果だと受け止めている。

一方、対話型鑑賞や VTS の科学的検証は常に大きな課題となっている⁹⁾。最近では、VTS 後に臨床画像の説明に要する単語総数、画像分析の時間、臨床的に関連する観察の数などが増加するなどを報告した研究が散見される¹⁰⁾。また、イタリアのグループは、VTS 能力達成評価表を作成しその妥当性と信頼性の解析結果を報告し、今後 VTS の教育評価法として使用される可能性がある¹¹⁾。我々も、科学的評価の成果を今後発表予定である。

さて、我々のプログラムの独自性は、デッサン+プレゼン、県美ワークの2部構成であり、その流れの中で医療に必要な観察力・直観力・感受性・表現力・会話力・共感力などを養うこと、さらに、県美ワークでは美術館が用意した作品での対話であるが、プレゼンは学生自身が選択したアートで対話するという点である。学生は形成外科実習の初日にこの命題を受け、約1週間かけて作品を選択するという過程を踏む。この

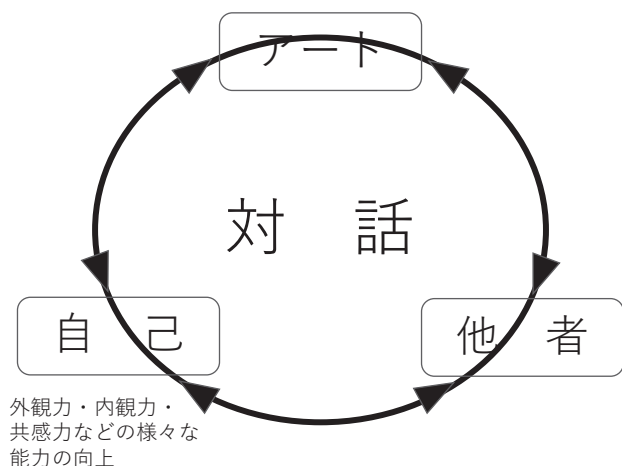


図3 アート・自己・他者との対話による循環

間に、学生自身は「何かを考え」、「何を根拠に」、「どのように発表するか」を考えなくてはならない。ここに、自分の経験を通して深く自分自身を考え、それを医療医学や実生活に関連付けていく作業に浸かることになる。日進月歩の医療の進歩の中で、これから求められる医師像は「正解のない答え」を導き出す能力、患者さんを癒す能力、自分自身を癒す能力、そして自分の「生き方」を深く考える能力である。その意味で、こちら側と自己側が用意したアートを介しての正解なき対話は語り手の価値観を受け取り、また内観にもつながり、医療にもつながっていく。作品の物語を知ることにも内観につながる。デッサンは外観のみならず患者さんの精神的肉体的な微妙な変化を見つける直感力にも通じる。アートの内容と対話形式に工夫を加えれば、医学に必要な「学びとは」、「創造とは」を深く考える可能性も出てくる。過去の我々の報告²⁾で、本教室の医学教育における必要性を感じた学生が96.5%と非常に高く、また全ての医療系に必要と答えた学生が半数を(54.5%)超えた結果になった

ことから理解できる。まさにアートを軸として、自己、他者、アートと循環しながら対話し、外観力や内観力を育て、個人としてそして医師としての「生き方」を考える授業であると思われる(図3)。それは、小人数の授業だからこそ可能である。

2022年1月からは、プレゼンの時間を別に設けて、デッサン、県美ワーク、プレゼンの3部構成で150分、150分、90分で展開している。追ってその成果は報告する。今後は、科学的検証、1回の授業ではなく数回の授業、大人数に対応、そして医学部のシラバスに組み込むことを検討していきたい。さらに、Wellness & Artistic Okayama (WellArt, Okayama)として、福武教育文化振興財団の助成を得て学生のみならず医療従事者や一般社会人へのビジュアルアートを軸としたセミナーの試みも開始した。

結 論

ビジュアルアート教室を開始して6年、この試みは明らかに医学生 の精神面に強く響き、そして将来の良き医療者育成につながると認識している。今後は、より科学的な成果を導き出し、日本の医学教育に貢献できればと考えている。

文 献

- 1) 大塚益美, 松本 洋, 木股敬裕: 医学教育における「デッサン教室」導入の試みーデッサンからアートの昇華ー。

- 岡山医学会誌 (2018) 130, 81-84.
- 2) 松本 洋, 北口洋平, 木股敬裕, 大塚益美: 医学における「ビジュアルアート教育」の導入: 第2ステップーアートから診る力, 伝える力を養うー。岡山医学会誌 (2020) 132, 98-101.
- 3) Housen A: Aesthetic thought, critical thinking and transfer. Arts Learning Research Journal (2002) 18, 99-131.
- 4) Yenawine P: Visual thinking strategies: Using art to deepen thinking across school disciplines. Harvard Education Press, Cambridge (2013).
- 5) Dolev JC, Friedlaender LK, Braverman I: Use of fine art to enhance visual diagnostic skills. JAMA (2001) 286, 1020.
- 6) Bardes C, Gillers D, Herman A: Learning to look: developing clinical observational skills at an art museum. Med Educ (2001) 35, 1157-1161.
- 7) 2018年度アートコミュニケーションプロジェクト報告書, 京都造形芸術大学アート・コミュニケーション研究センター, 京都 (2018).
- 8) 鈴木有紀: 教えない授業, 英治出版, 東京 (2019).
- 9) Mukunda N, Moghbeli N, Rizzo A, Niepold S, Bassett B, et al.: Visual art instruction in medical education: a narrative review. Med Educ Online (2019) 24, 1558657.
- 10) Agarwal GG, McNulty M, Santiago KM, Torrents H, Caban-Martinez AJ: Impact of visual thinking strategies (VTS) on the analysis of clinical images: A pre-post study of VTS in first-year medical students. J Med Humanit (2020) 41, 561-572.
- 11) Ferrara V, De Santis S, Melchiorri FM: Art for improving skills in medical education: The validation of a scale for measuring the visual thinking strategies method. La Clinica Terapeutica (2020) 171, e253-e259.